

2019 年度 韓国社会福祉学会春季学術大会報告 II

韓国社会福祉学会のホスピタリティに包まれて

滝口 真
西九州大学

この度、韓国社会福祉学会春季学術大会からの招聘を受けて 2019 年 4 月 26 日（金）～27 日（土）に韓国ソウル神学大学校において自由研究発表の機会に恵まれました。事前に日本社会福祉学会の選考を頂き感謝いたします。発表テーマは「日韓高齢障害者施設におけるソーシャルワークに関する考察 ～ 福祉レクリエーション援助の視点より ～」であり、小生が学部時代より実践している臨床動作法における集団療法の一つを具現化し、脳性まひ児への対処法を高齢障害者等に援用を試み、職員の意識を明らかにしたものです。通訳は西九州大学大学院博士後期課程趙廷仁院生が行い、日本高齢者福祉職員 410 人、韓国高齢者福祉職員 384 人、両国有効回答合計 794 人のデータを分析の対象としました。質問項目の内容的妥当性の検証については、SOONGSIL CYBER 大学校高齢福祉学科 CHOMOUN-GI 学科長のスーパービジョンを受けており、大会会場での再会に感謝しました。

さて、この度の調査では、日本における介護現場の専門職として介護福祉士の国家資格者が 174 人（42.4%）と最も多くを占めていましたが、韓国では、日本のような介護福祉士養成制度が無く、半数以上が日本における介護職員初任者研修を経て実務に当たっていることが特徴でした。また、大学制度についても日本における短期大学に位置する制度が無く、大学と専門学校に二分している点も高等教育制度の違いを知ることとなり、具体的なコメントを頂いた KANGNAM 大学校社会福祉学科 JUN HOSUNG 教授のご指導に心からの感謝を申し上げます。今後の研究の方向性が示され感謝いたしました。

研究発表後は、韓国社会福祉学会 CHUNG MOOSUNG 会長（SOONGSIL 大学校総長）による昼食会へのご招待を賜り、更なる学際的な交流を通じた友好の機会が与えられました。今大会では、学会での受付、会場案内、学会発表に対する誠実な学術面での問い、食事会のご配慮を含め、韓国社会福祉学会ご関係者皆様のホスピタリティに包まれた機会に改めて感謝いたします。隣国での招聘を拝受して、わが国の「おもてなし」文化を再考しながら、福祉サービス利用者へのソーシャルワークのあり方を問い直す機会が与えられ感謝でした。

なお、本研究においては、科学研究費補助金（17K04290；研究代表者・岡本宣雄）、私立大学研究ブランディング事業・西九州大学「認知症予防推進プログラム SAPS」並びに日本福祉文化学会「研究プロジェクト助成」を受けての研究成果の一部であることを付記します。